

1. 本園の目指す幼児像

- ・遊びを通した総合的な活動の中で教師や友達との充実な関わりを持ちながら、心情・意欲・態度を育てる
- ・自然と豊かにかかわる体験を通し、考えたり言葉を伝え合いながら豊かな感性と人間関係の構築をはかる

2. 本年度の重点的に取り組む目標・表内縦書き赤字

3. 評価項目の達成および取り組み状況

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果						コメント	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果		総括評価
① 教職員の働き方改革	園業務の効率化と就業時間の適正化	1	学年で進める業務計画を立てる	3	1	全体・学年・個々の業務を捉えることで効率化が上がり、決められた時刻に帰ることが増えた	3	B 2.5	・昨年度に比べ業務内容の整備も進み、就業時間を守れるようになってきた。しかし、行事前や係の仕事があると時間を過ぎることもあった。前もった優先順位や計画が必要だと感じた。 ・現在、月曜日と金曜日のみfreedayとして6時30分までと決めている。この時間は職員間でコミュニケーションをとれる有意義な時間となっているため引き続き行いたい。 ・就業時間内に帰る習慣ができてきた半面、保護者への電話連絡などが疎かになってはいないか、留守電になった際はそのままにして帰らず、用件の内容を園内にいる職員に伝えておくなど、きめ細かい対応に努める。 ・決められた時間を過ぎても業務を続ける職員がいる。これは良くない循環につながるから見直し、過ぎる時には園長に報告するようにする。
		1	業務内容の優先順位を決め効率的に進める		1	業務内容の把握がきちんとできている			
		1	会議において担当職員は予め議題を把握し、終業時刻を計画的に決めて行う		1	会議の担当(週番)は議題を立てることでスムーズに進行出来るようになった			
		1	園務の内容を理解し共通理解を図る		1	園内の業務の種類を知り園務全体像を共通理解できた			
② 幼児一人一人と丁寧にかかわる	幼児の人権に配慮した保育への見直し	4	幼児の言動を単的に捉えず思いを受け止める様に努めた	3	4	幼児の言動を自己に置き換え、深い読み取りをした上で援助できた	3	A 2.6	・今年度は「いのちの安全教育」や「みんなちがってみんないい」というジェンダーの観点から自園からみえる子どもの姿より自分でストーリーをつくり職員でパネルシアターを作成したことで子どもたちに分かりやすく理解でき園全体で学ぶことができた。これからも子どもたち一人一人が安心して、十分自己発揮ができるように努めていきたい。 ・自己に置き換えて子どもたちと接することができた。人権の側面から、おむつを替える時は「今から替えるよ!」と喋り替えたり、お薬を塗る時も「今から消毒するけど、大丈夫だからね!」など声をかけて行うなど細やかにすることができた。 ・保育に携わる職員だけではなく子どもたち全てに関わる事務、給食、バスの職員にも子どもの権利条約に基づく用紙を配布したり伝えたりし、園全体で子どもたちの人権が守られる様に配慮したが、もっと補助職員の研修の場を設け子どもたちの深い読み取りが出来るようにしていきたい。
		3	幼児への正しい言葉かけを意識することができた		3	幼児への言葉かけはその子にとり分かりやすく丁寧に行うことができた			
		2	幼児とのかかわりを振り返り、その子の思いに気付くことができた		2	その子の姿から思いや願いを汲み取ろうと心掛けた			
		1	幼児と楽しくおしゃべりをする		1	幼児と楽しくおしゃべりや遊びを楽しむことができた			

③ 幼児の主体性を育むための保育の展開	幼児が自己発揮して遊べるような環境構成の工夫	4	幼児の遊びを予想したり、前日の振り返りや記録から子どもの思いを汲み取ったりして環境の再構成をする	2	4	(ほとんどの)幼児が自己発揮しながら環境にかかわり、自分たちで展開しながら遊んでいる	2	C 2.4	<ul style="list-style-type: none"> ・要らなくなった箱やリボン、牛乳パックなどをため、ハサミやのり、セロテープなどの教材を増やし自由に遊べる環境を整えた。すると、園で作ったものをうれしそうに持ち帰ったり、家でも作って園に持ってきたりする様になった。 ・行事を終えた後を大切にしていきたい。終えた後こそ子どもたちが伸びる時。その姿を想像しどんな環境を準備すればよいのか教師一人一人が考えられるようになっていきたい。 ・遊びの後の片づけ方が気になる。出来ていないことを口頭だけで注意するのではなく、子どもたちがどうすれば興味を持ち、学べるかを教師がもっと考えられるようにしたい。 ・ブロックや積み木など、まだ続きをしたい子の作品は継続的に行えるように壊さずにロッカーの上に飾ったりするようにした。
		3	幼児の遊びを予想して必要な物を準備して環境を再構成する		3	(ほとんどの)幼児が夢中になって遊んでいる			
		2	前日の遊びがより楽しくなるよう教材を準備する		2	(ほとんどの)幼児が楽しそうに遊んでいる			
		1	前日の遊びが継続できるような準備をする		1	まだ何をして遊んでいいかわからない幼児がいる			
④ 安全への意識を高める	幼児の安全対応力を高める取り組み	4	声掛けだけではなく幼児が自分で気付くような環境を準備したり意識できるような取り組みを実践した	3	4	保育の中で「ヒヤリ」「ハット」を感じた時に、幼児と一緒に安全について考えた	3	B 2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭マップを用い危ない場所や全体で守っていく約束事を明確化した。また、子どもの成長と同時に遊びもダイナミックになってくることもあり、定期的に見直しを行うようにした。 ・生活に慣れてくると、トイレで遊ぶ子どもでくるので慣れてくる時期だからこその見直しが必要であると感じた。 ・廊下を走る子がいるので注意喚起の張り紙を分かりやすく三角コーンに張ったりした。 しかし、慣れてくるとまた走り出す子もいたがそのままになっていた。子どもの状態によって注意喚起の方法を見直したり、遊びを通して学ぶなどの工夫を教師自ら考え実践していかなければいけないと思う。そういった意識や視点を持つことが大切だと感じている。
		3	園庭遊びでは全体に目配りをしながら安全配慮に努めた		3	幼児の怪我が減った			
		2	園内外において危険だと感じた時はそのままにせず、主体的に改善に努めようとした		2	危険だと感じた時はそのままにせず、園長に報告したり積極的に全体周知をしたりなど危機管理意識を高めることができた			
		1	安全計画に基づき、避難訓練を行い、幼児の安全に対する意識を育む		1	教師の指示や避難放送を聞き、落ち着いて安全な場に避難できるようになった			

取り組みと成果に関する評価結果

- A:とても良い
- B:まあまあ良い
- C:普通
- D:良くない(要検討)

○ 総合的な評価結果

評価	理由
B	重点目標で掲げていた「園業務の効率化」では、職員一人一人の意識が変わってきた事を実感出来た。半面、就業時間を守ろうとする余り、必ずしておかなければいけない業務が抜け落ちてはいないかなど、優先すべき内容を職員全体で共通理解する事が出来た。又、「幼児が自己発揮して遊べる様な環境構成の工夫」では、行事を終えた後こそ、大切に考えていきたいといった意見が上がり、少し先を見据えた伸びゆく子どもの育ちに合った環境を準備し、遊び込める工夫を教師一人一人がきちんと出来る様に努めていこうと思う。

○ 今後、取り組む重点的課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	○長期的視点から年長までに育ていきたい子どもの姿を共通理解していく	・話をする人の言葉を遮らず興味を持って聞こうとする態度 ・物を大切にできる態度 ・お迎えが来た時にきちんと片付けて帰る態度 ・お箸を持つまでの過程など
2	○連続的学びにつなげる活動後の工夫と実践	・子どもの連続的育ちを考えた保育内容を各学年で教育課程や週案に盛り込む
3	○生活の中から今必要と感じる幼児への指導方法を教師が主体的に考えたり気づくことができる	・子どもたちが生活に慣れてきた頃合いを見抜き、定期的な見返しを行う (整理整頓・トイレ・食事の仕方や直し方等)

○ 学校関係者評価委員会の評価 委員会実施日 令和 6年 3月 4日

今年度の重点目標すべてにおいて、とても真摯に取り組む積み重ねてこられた様子が良く分かる内容でした。特に「教職員の働き方改革」についてはコミュニケーションを図り共通理解を深めることで、昨年度より大きく進化を遂げていると感じました。今後も保育の質を落とすことなく改革を進め、ゆとりを持って子どもたちに向き合っていただきたいです。「主体性を育むための保育の展開」は自己採点では低くついていましたが、とても素晴らしいと思います。園でのさまざまな経験が集約されて育まれるものなので容易ではないでしょうが更なる先生方の工夫に期待したいです。

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員